

110 各種炎症性肺疾患における血漿および気管支肺胞洗浄液中のC3a, C5aの測定

黒田道郎, 金沢 実, 石坂彰敏, 鈴木幸男(慶大内)
久保敦司, 橋本省三(慶大放)

補体活性化過程で生ずる活性化フラグメントであるC3a, C5aはアナフィラトキシンと呼ばれ平滑筋収縮, 血管透過性亢進などの生物活性を有する。また, C5aは強力な好中球走化活性を有している。炎症性肺疾患においてC3a, C5aが炎症反応の初期より中心的役割を演じていると考えられており, 血漿とともに肺組織中のC3a, C5aの測定は各疾患の発生機序および病態の解明に有用であると思われる。そこで, 今回我々は各種炎症性肺疾患の血漿中C3a, C5aの測定に加え, 気管支肺胞洗浄液中のC3a, C5aの測定も試みた。測定にはUpjohn社製Radioimmunoassay kitを用いた。

血漿中C3a, C5a値は健常者でそれぞれ 71.1 ± 18.4 ng/ml, 2.2 ± 2.1 ng/ml (n=9), 肺線維症 471.2 ± 117.2 , 10.3 ± 9.9 (n=7), サルコイドーシス 218.5 ± 119.5 , 5.9 ± 10.2 (n=13), マイコプラズマ肺炎 401.8 ± 157.9 , 3.8 ± 7.1 (n=8)であり, 炎症性肺疾患で高い傾向にあった。気管支肺胞洗浄液中C3a, C5aの測定ではステロイド治療前のサルコイドーシス例と一部の肺線維症例で高値を示した。